

第39回 野村記念講座

「銭形平次」の生みの親で、音楽評論家「あらえびす」としても活躍した野村胡堂は、晩年に私財を投じて“野村学芸財団”を設立しました。その元奨学生で演奏家の方々が、胡堂のふるさと紫波町を訪れ、胡堂への恩返しと芸術文化の向上を願い、コンサートを開催します。



野村胡堂・あらえびす

令和5年10月15日〔日〕

午後1時30分～4時30分 入場料 1,000円（全席自由／要申込み）

野村胡堂・あらえびす記念館 あらえびすホール 先着100名

※当日は記念館の入館料が無料です。野村胡堂没後60年記念企画展「野村胡堂への鎮魂曲」は、10月15日〔日〕が最終日になりますので、ぜひご覧ください。

第1部 講演会

午後1時30分～

松田智雄[※]著『音楽と市民革命』を再読して
——ある不出来な弟子の回想
[※]野村胡堂の娘婿。経済学者。東京大学名誉教授。

吉野 忠彦 氏

（公財）野村学芸財団理事・事務局長

第2部 コンサート

午後2時30分～

羽石 道代（ピアノ）

上江 隼人（声楽）

北川 森央（フルート）

安藤 珠希（箏）

安藤 政輝（箏・胡弓）

問合せ
申込み

野村胡堂・あらえびす記念館（岩手県紫波郡紫波町彦部字暮坪193-1）
電話 019-676-6896 FAX 019-676-6897

主催：野村学芸財団岩手堂子会、野村胡堂・あらえびす記念館

写真 野村胡堂・あらえびす記念館



野村胡堂・あらえびす (紫波町名誉町民第一号)

本名野村長一は、明治15(1882)年に紫波町大巻に生まれ、盛岡中学(現盛岡一高)時代は、金田一京助、石川啄木、原達らと学業をともにした。

報知新聞に入社すると、生涯にわたるSPLレコード蒐集が始まる。クラシック音楽の評論記事を新聞に掲載するようになり、音楽評論家「あらえびす」が誕生した。

昭和6(1931)年、新聞社に勤めながら『文藝春秋オール讀物』創刊号に「銭形平次捕物控」を発表。長年読者に愛され続け、総作品数は383編にのぼる。

生涯で執筆した作品は、捕物小説のみならず、探偵小説、奇怪小説、長編時代小説や子ども向けの科学小説のほか、「よき曲、よき演奏、よき録音」が揃ったSPLレコードを紹介した『名曲決定盤』や、胡堂ならではの多彩な表現が光る『楽聖物語』など多岐にわたる。

野村胡堂・あらえびす
紫波町名誉町民章を首にかけて
昭和34(1959)年

今年が胡堂没後60年 — 胡堂が後世に遺した「野村学芸財団」 —

胡堂は晩年、私財1億円を投じ、返済義務のない奨学金制度を取り入れた「野村学芸財団」を設立した。この財団は、現在までに1,000人を超える学生や研究者らを輩出している。

財団設立2ヶ月後の昭和38(1963)年4月14日、胡堂は満80歳でこの世を去り、今年没後60年を迎えた。

第39回野村記念講座 午後1時30分～4時30分(開場午後1時)

第1部 講演会

演題「松田智雄※著『音楽と市民革命』を再読して——ある不出来な弟子の回想」

※野村胡堂の娘婿。経済学者。東京大学名誉教授。

講師 吉野 忠彦 氏 (公益財団法人野村学芸財団理事・事務局長)

— 休憩 約15分 —

第2部 コンサート(途中休憩あり)

出演 羽石 道代(ピアノ)、上江 隼人(声楽)、北川 森央(フルート)
安藤 珠希(箏)、安藤 政輝(箏、胡弓/講座総合プロデュース)

主な演奏曲目(予定)

- ヒンデミット 《Ludus Tonalis》より
- ヴェルディ 《Cortigiani vil razza dannata》
- シャミナード 《Condertino》Op.107
- 宮城道雄 《湖辺の夕》ほか



問合せ
申込み

野村胡堂・あらえびす記念館

電話 019-676-6896 FAX 019-676-6897

〒028-3315 岩手県紫波郡紫波町彦部字暮坪193-1

